

報道関係者各位

2016年1月5日

代表取締役社長執行役員 井出 健義の従業員への年頭あいさつ要旨

新年あけましておめでとうございます。

本日の当社仕事始め式での、代表取締役社長執行役員 井出 健義の年頭あいさつ要旨をご案内申し上げます。

迎えた新年の全登録車市場は、国産車人気モデルの新型車効果もあり、前年比で若干の増加に転じるのではないかと予想しています。当社が取り扱う純輸入車もその波に乗れる可能性はありますが、フォルクスワーゲン問題の影響もあり、当分は息の抜けない状況が続きそうです。

100周年を迎え、新たな航海に出たヤナセ丸の中長期視点に立った今後の針路は、2017年の消費税率引き上げ後の一時期を除き、東京オリンピック開催の2020年までは、海外の大きな経済事件、あるいは国内の大自然災害が発生しない限り、純輸入車の販売は大きな波乱もなく、比較的安定して推移すると予想しています。しかし、2020年以降は、「人口減・少子高齢化・労働人口減」や「顧客の高齢化と若者のクルマ離れ」「自動車技術のパラダイムシフト（自動車産業の大転機）」「日本の財政破たん問題」「地域間格差の拡大」などの、リスクと脅威の顕在化が想定されます。

したがって、こうした将来の不安・不透明感を乗り切るために、今からヤナセ丸を「頑丈かつ、しなやかな不沈艦」に仕立てていく必要があります。危機が顕在化してからでは、「時すでに遅し」です。1年先すら誰も見通せない不透明な時代は、絶え間ない変化に対応し、スピード感を持って、自らを機動的に変革できる企業だけが持続・成長可能となるでしょう。

当社は、2011年から2期にわたる中期経営計画を通じて、全社経営改革に取り組んできました。今後も、「CRM（顧客関係性）強化」や「ICT（情報通信技術）有効活用」などを最重要課題として、既存ビジネスの強化に取り組む方針は変わりません。ただ、これまでは自社の経営改革・改善に主眼を置いた「内なる経営改革」でした。今期、策定する次期中期経営計画には、上述のリスクと脅威に対する2020年以降の備えとして、「外に向かったの経営改革」も積極的に織り込んでいく方針です。

これは「攻めへの意識改革と実行」を意味し、具体的には、「Globalization」（グローバル化、海外進出）、「Diversification」（多様化、多角化、女性の活用）、「Concentration in Core Competence」（選択と集中）、「Risk Taking」（リスクの無いところに利益なし）、「HRRD-Human Resources Recruitment & Development」（人材採用・育成）などをキーワードとして、それらに沿った戦略的な取り組みを実行していきます。

“Anything is better than nothing”という私の好きな言葉があります。日本語に訳せば、“何でもやってみなはれ”でしょうか。この精神を当社でも奨励して、いろいろな“外に向っての新規の種まきや取り組み”、例えば、レンタカー事業のような多角化を進めたり、海外事業進出を具体化したり、収益の柱を何本も建て、将来のリスクと脅威に備える挑戦を続けていきます。

ぜひ社員の皆さんも、日常の仕事の中で、自分たちの仕事の将来の夢を描いてください。皆が夢を描き、実行に移すことが意識改革につながります。そして、これから10年・20年先を見据え、中長期の布石を打ち始め、本年を「外に向かったの攻めの元年」としましょう。今年も明るく元気に、「笑う門には福来る」です。